

Christine  
Fausten  
Solo  
Exhibition



BULLDOGS

料金別納  
郵便

Christine Fausten Solo Exhibition

# Buddha's Dogs

**3.18** 水 - **3.28** 土

水 / 木 / 日 13:00-18:00 金 / 土 13:00-20:00

休廊日 / 月、火 ※本展は、3.22(日)は開廊致します。

**diEGO**

150-0001 東京都渋谷区神宮前 4-17-8 オリエンタル原宿 205  
TEL 03-3478-3130 <http://www.di-ego.net>  
表参道駅 A2 出口 徒歩 6 分 ※黄色い建物です。



## Christine Fausten

### クリスティーネ・ファウステン

1963 年ドイツ・デュッセルドルフ生まれ。

1990 年よりスイスに在住し、現在バーゼルを拠点に活動する。

<http://www.christinefausten.ch>

彼女の魅力的でカリスマ性のある姿の立体作品を、一言で「人形」と表現するのは不適切だろう。ファウステンの「動物人間」は、必ずしも比喻表現としての宗教・カルト的なモチーフを象っている訳ではないため、私は彼女が制作する独特でミステリアスな雰囲気漂う作品にはむしろ「イドラ」という言葉が相応しいと思う。

イドラとは、ギリシャ語の「エイドロロン」に語源をもつ言葉で、これは最古の芸術表現だと言われている。イドラ創造物は、祭儀で使用されたり、家族にまつわるもので、カルト的な機能は排除されている。このイドラは、ホモサピエンスがユーラシア大陸に上陸した約4万年前よりすでに創造されており、彼らはイドラと共に生活してきた。像を制作することに喜びを感じ、人々がその創作物に魅了されることは、人間の本質的な感情や行為なのだろう。この感情と行為自体は非歴史的であり、それは社会が時代と共に発展していく中でも変わることはない。ある「もの」が、そのもの自体である限り、本質的な精髓は保たれるのである。その本質に対する関心や直観こそが、クリスティーネ・ファウステンの作品の特徴だと言えるだろう。そのため、彼女の作品は、文化的・言語的な壁も超えて全ての鑑賞者の心に響くのである。

アートライター トーマス・ヴァルラフ